

JASCT

ニューズレター

第14巻第1号

平成7年(1995年)3月

発行人: 松本清一

印刷所: 絢文社

平成7年度 研修会および学会の予告

1. 第24回 性治療研修会
期 日 4月16日(日)
場 所 日本赤十字看護大学講堂(東京・渋谷)
テーマ 心身医学と性
2. 第12回 世界性科学学会
期 日 8月12日(土)～8月16日(水)
場 所 バシフィコ横浜(神奈川・横浜)
学会長 松 本 清 一(JASCT会長)
3. 第15回 日本性科学学会
期 日 9月17日(日)
場 所 埼玉県県民健康センター大講堂 2F (埼玉・浦和)
学会長 矢 追 良 正(独協医科大学越谷病院産婦人科教授)

《一般演題申込み》

締 切: 平成7年6月30日(金)

テーマ: (1) 性教育 (2) 性の臨床 (3) 中高年の性 (4) その他

800字以内の講演要旨を和文タイプまたはワープロにて記載し、下記宛てお送り下さい。

学会連絡先及び一般演題送付先: 〒343 埼玉県越谷市南越谷2-1-50

独協医科大学越谷病院産婦人科

第15回日本性科学学会事務局

(林 雅敏, 榎本英夫, 矢追正幸)

TEL 0489-65-1111 (内5313)

※ 関連記事が第4面にあります。

Vol. 14

No.
1

JASCT 事務局

〒107 東京都港区南青山1-1-1 新青山ビル西館3F

長谷クリニック内

TEL 03(3475)1780 FAX 03(3475)1789

ワギニスムスと妊娠

日赤医療センター 金子 和子

堀一子先生の後をうけて、今回から JASCT 症例研究会がこの欄を担当させていただきます。症例研究会は、会員がそれぞれの経験とバックグラウンドを出し合って治療技法を高め対応能力を広げようとするものです。その一部は学会誌等で発表してきましたが、発表にいたらなかった症例、意見、疑問、提起された問題等も、なかなか刺激的で示唆に富んでおり、参加した人だけのものにしておくのは惜しいと思っておりました。この欄はそうした意味で、症例だけでなく、様々な問題も取り上げて行きたいと思っています。担当者は毎回変わりますが、それも治療者の様々なヴァリエーションが解り興味深いでしょう。今回は、最近感じる事が多い治療の困難さについて、ワギニスムスと妊娠を通して述べます。

A子さんが来所したのは見合い結婚後約1年半過ぎた1991年の夏でした。結婚前に初めて試みた時に痛くて入らず、それが結婚後も続いているという事でした。自分でも精神的な恐怖のせいか身体的に問題があるのか解らないとのことでした。次回の診察では辛うじて1指入りましたが恐怖と痛みが強く膣鏡の挿入はできませんでした。

まず行動療法的アプローチから入ることにし、自律訓練、鏡を見る、一人及び夫とのタッチング等が進み、タンポンの練習が宿題となった6回目にA子さんは、医者へ行って人工授精をしたいと言い出しました。夫も賛成しているとのことでしたが、子供をもうけることでこの問題にピリオドを打ちたいのだなという印象を受けました。子供に関しては、現在の状態でも精液を指で膣へつけば妊娠の可能性はあること、さらにもう少し練習が進めばスポイト等で精液を入れられ、そうすれば二人だけで妊娠することが可能であることを告げ、これまでせっかく順調に來たのでもう少し頑張るように薦めました。A子さんも納得して帰りました。しかし8回目近くになって、足の指を骨折したので通えないがどうしたら良いかとの電話が入った後連絡が途絶えました。

1年以上して連絡して來たときには妊娠3カ月でした。自分で訓練し、夫の2指が挿入できるようになった所でスポイトで精液を入れたら妊娠した、近所のY病院で診察を受けたが内診にてこずった、出産も不安ということでの来所でした。日赤医療センターで内診の練習を行い、Y病院へはこれまでの事情を説明した紹介状を書き、内診、出産への不安を脱感作することにしました。しかし里帰り出産に心が動き、国立精神神経センター国府台病院（以後K病院と表す）へも筆者の紹介状を持って行くことになりました。K病院の対応は、至れり尽くせりだったそうでA子さんは大変安心したのです。結局Y病院で普段の検診を続け日赤でカウンセリングを受け、K病院で経膣分娩で男子を出産できたのでした。

スポイトで妊娠した患者さんは初めてではありません。ワギニスムスの練習が停滞し、拳児希望が強い時ジャンピングボードとするためにスポイトの練習を織り込んだり、夫の射精不全の問題で妻の希望でスポイト利用で妊娠を目指したりします。そうした場合の妊娠は治療者も納得でき、出産、育児等による良い影響も期待できたのです。しかし今回のようないわばセラピストの関与しない形のは初めてでした。A子さんが妊娠期間や出産を無事に乗り越えられるか、治療者も始めは若干の不安がありました。K病院のスタッフ達に支えられ無事出産したわけですが、考えてみると丁度その頃からワギニスムスの方たちの変化が明白になって來ました。それまでワギニスムスの人達は粘り強く自分の問題に取り組む傾向が強かったのですが、そのころから、内的問題に触れないまま解決しようとする人たちが出て來たのです。勿論解決するならそれで良いのです。不必要に精神療法的に介入するのを避けるのはセックス・セラピーの基本です。しかし、すんなり解決したかのように見えながら妊娠してから非常に不安になって、来所する人や、今一步の所までは急速に解決しながら最後のところで行きづまり、身体化が激しく、それをきっかけに中断する人たちが目立つようになって來たのです。問題に取り組む力がなくなって來ているという印象を受けるのです。その極端な例は初めから性的問題はどうしても良いから人工授精をしてくれと言う患者さんでしょう。

治療途中の妊娠をどう考えれば良いのでしょうか。スポイトで妊娠したがその後一切性交がない患者や、偶然妊娠したが挿入できるようにならないので来所する患者もあります。患者としては妊娠へ逃げるのも一つの有効な方法とは思いますが、性治療としてはどうなのだろうか、治療者はどこまでを考えれば良いのだろうか、性治療とは何なのだろうか……結論を出すにはまだ時間がかかりそうです。

症例研究 今年の予定は下記の通りです。奮ってご参加ください。参加御希望の方は事務局までお知らせください。

場	所：JASCT事務局（場合によっては、変わることもありますので、事務局にお確かめください）
時	間：午後6時—8時
月	日：第3回—5月15日（月） 第4回—7月17日（月）
	第5回—9月25日（月） 第6回—11月20日（月）
症例提出者：	第2回—大川玲子「ワギニスムスの症例」

なお勤務先の都合で、参加に関して書類の必要な方は事務局にお問い合わせ下さい。

憂うべき母子相姦の実態

～性と愛の電話相談室～

山根オフィス 山根 藤 策

《今 何故母子相姦だけを取り上げて憂慮するのか》

近親相姦全てについて倫理に反する性行動であり、絶対に避けねばならないことは言うまでもありません。しかし母子相姦以外の近親相姦については、避妊と外部への秘匿が完璧であれば、倫理面での当事者の良心の呵責以外大きな実害を招くこともなく、月日の経過や生活環境の変化と共に解消するものです。

最も忌むべき父娘相姦については、日本人の富裕化に伴い後妻も来ないような極貧家庭が消滅したことと、一家ザコ寝といった劣悪な住宅事情が改善されたことによって、発生回数が激減しております。また兄妹・姉弟間の性行為も件数の増加はあるものの、早晚住居を別にし異なる道をたどることになる訳で、実害を伴う後遺症もなく解消していきます。

ただ母子相姦のみが発生件数の激増と共に、将来息子の結婚の障害となったり、またやっと結婚できたとしても離婚等の最悪の事態を招く原因になっており、憂慮の念を深めております。ここにその実態を明らかにし、発生防止の工夫について先達識者のご高見を伺いたいと存じます。

《性と愛の電話相談室の現況と、母子相姦者への対応について》

相談室では単に性の悩みだけでなく、愛情や不倫のもつれ、離婚・強姦被害・プライベートビデオ流出のトラブル等その時その時の社会事象から法律問題まで、必要なときには外部の医師3名と弁護士1名の協力を得て法で許される範囲内で幅広く相談に乗っており、性技術についても応答指導しています。シニアからの相談を主たる対象にしていますので、ヤング・ジュニアからの相談について万全の対応ができていないのでは…との反省もあります。

毎日朝10時と夕方6時から約一時間相談を受けていますが、15件前後掛かってきます。時間外の電話も多く、実際にゆっくり話を聞いてあげられるのは朝夕各2～3件が限度です。

近親相姦の相談は全相談の1～2割、その内母子相姦の相談が7～8割です。当事者男子(18～45歳)からの電話が8～9割、母親から1～2割、中には事実を知った父親やこの種の問題生徒を抱える担任高校教師からの相談もありました。

私の信念として、刑事罰や健康上問題がない限り全ての性行動をノーマルなものと肯定し、倫理面でも寛大な態度で相談に応じるようにしています。母子相姦についても決して叱ったりお説教・反論をしないで最後までじっくり話を聞いてさしあげます。これが最良のカウンセリングと考えています。早く止めなさいと言っても絶対に止められないのが母子相姦の悲しさです。但し、実害の発生については説明しておきます。

高年男子に関しては、自分の跡取りの問題を真剣に考えねばならない時期にきていることを注意し、また結婚適齢期の男子には、母親との関係が続いている間は絶対に結婚しないよう、罪のない被害者をふやさないよう警告しています。その他周りの圧力で結婚はしたものの、母子相姦が原因でうまくいかない夫婦には、即離婚を勧告しております。

《母子相姦増加の原因》

- ① 単身赴任特に長期海外単身赴任の激増とそれを不都合とせず受け入れる日本の社会構造
- ② 少産家庭化に伴う一人息子の増加
- ③ 教育ママ・過保護ママ・溺愛ママの普遍化
- ④ 熟女淫乱化傾向の進行

《母子相姦の実害》

- ① 母親による息子の縁談や結婚への妨害
- ② 結婚した息子の嫁に対するいびりや追い出し
- ③ 母親との過激な性行為により若い妻との淡泊な性行為に対応できなくなった息子の性交意欲の喪失及び不能
- ④ 結婚後も続く母子相姦を妻に悟られたための離婚及びそれを近隣に言い触らされたための社会的影響

《母子相姦を避ける工夫とアドバイス》

- ① 母親の寝室は施錠できるようにし必ず施錠してやすむ
- ② 息子の前に下着姿をさらさない
- ③ 入浴及びその前後息子の動向に注意する
- ④ 下着類を無防備に洗濯籠につっこんでおかない
- ⑤ パンティー等は目につくところに干さない
- ⑥ 息子の自慰に関心を持たず無視する
- ⑦ いかなる事情があっても息子の性器に手を触れない
- ⑧ 息子の在宅時には絶対に自慰をしないようにし、自慰をするときは施錠し発声を抑制する
- ⑨ 自慰器具や性的文献等は施錠して保管する

《母子相姦当事者親子へのアドバイス》

- ① 性行為継続中は絶対に息子の結婚を避けること
- ② 避妊・外部への秘匿の完璧を期すること(アパートの場合隣室の人に注意する)
- ③ 単身赴任の早期解消に努めること
- ④ 息子の進学や就職先は遠方の地を選ぶこと

(次頁につづく)

《症例報告の省略について》

実害を紹介する症例数件の詳述は、紙面の都合で割愛させていただきます。

本号より「私のカウンセリング」という連載を開始致しました。この連載は性治療の分野でもご活躍の会員の先生方にご寄稿頂いたものです。

どうぞ、ご期待ください。

第 15 回 日本性科学学会のご案内

第 15 回日本性科学学会総会ならびに学術講演会を下記のとおり開催致しますので、奮ってご参加下さりますようにご案内申し上げます。

(メインテーマ:「人間と性との関わりを見つめて」)

期 日:平成7年9月17日(日) 午前9時～午後6時
場 所:埼玉県県民健康センター 大講堂(2階) (浦和・埼玉県庁前 Tel:2444-24-2611)
学 会 長:矢 追 良 正(独協医科大学越谷病院産婦人科 教授)
参 加 費:一般 3,000円 会員・教職関係者:2,000円 学生:1,000円
挨 拶 埼玉県産婦人科医会会長, 日本母性保護産婦人科医会副会長 丸 山 正 義
特別講演1 性科学の世界の流れ JASCT 会長, 日本家族計画協会理事長 松 本 清 一
特別講演2 生殖医学と倫理 大東文化大学法学部教授 中 谷 謹 子
学会長講演 女性の性意識と性機能の変化について 独協医科大学越谷病院産婦人科教授 矢 追 良 正
教育講演1 中高年婦人のQOL(性的側面) 広島大学保健学教授 石 井 と く
教育講演2 AIDS時代における行動科学としての性教育 千葉大学教育学部教授 武 田 敏
シンポジウム『学校性教育の現状と未来』 モジュレーター 埼玉県産婦人科医会副会長 小 林 輝 夫
他 教育講演, シンポジウム, 一般演題

事務局より

JASCT 第 16 期会計報告

(平成5年10月1日～平成6年9月30日)

—— 阪神大震災で被災された会員の皆様に心からお見舞い申し上げます ——

大震災で被災された会員の方は20人ほどに達しておられます。これらの方々がショックから立直り、元気で復旧に取り組んでおられることを念じております。

被災された方へのお見舞いと励ましのために義援金を募ることといたしました。会員の皆様にはすでにいろいろな形で拠金しておられることとは思いますが、同じ会の仲間の再建のための支援として、ご賛同、ご協力を賜わりますようお願い申し上げます。

なお、お見舞金は直接ご本人にお送りしたいと存じます。一部の方のご消息は分かっておりますが、不明の方々がまだ多くおられます。被災者のご消息に関し、事務局あてにご連絡を頂きたく、併せてお願い申し上げます。

記

1. 金 額 1口 5,000円 (何口でも可)
2. 締め切り 4月30日
3. 郵便振替口座番号 00180-8-569300 JASCT

※同封の振替用紙をご利用下さい。

以 上